

●科学読みもの・ゴマシジミのはなし●

そら君が出会った不思議な青いチョウ

～アリとワレモコウとのトライアングル～

を出版することができました！！

北広島森の倶楽部 ゴマシジミ研究部

北広島森の倶楽部は、2000年に設立された北広島市にある自然好きの集まりです。ホームグラウンドは北広島レクリエーションの森、毎年北広島市近郊での自然観察会や、旭川・積丹などバスを利用して日帰りでのちょっとした遠出などを行っています。部員には地質や動植物から考古学までの自称スペシャリストが点在するので、いろんなことを教えたり教わったりしながらゆるやかに行動しています。



そこに2012年春に誕生したのがゴマシジミ研究部です。ゴマシジミは、お味噌汁には入っていません。シジミチョウ科のチョウの一種です。ゴマシジミ研究部は、北広島市周辺で細々と暮らしているこのチョウの未来をより明るいものにしたいと考えて、ナガボノワレモコウというバラ科の植物、アリでもクシケアリの仲間、そしてゴマシジミの基礎研究を行っています。



ゴマシジミは、はねを広げると500円硬貨よりも少し大きい位で、外国でこの仲間は『ラージブルー』～大きくて青いチョウ～と呼ばれています。生息している地域によって、同じ地域でも個体によって、大きさやもように違いがあります。日本では環境省レッドリスト2019に、絶滅危惧ⅠA類（CR）として関東・中部亜種、絶滅危惧ⅠB類（EN）として中国地

方・九州亜種、絶滅危惧ⅠⅠ類（VU）として中部高地帯亜種、そして準絶滅危惧（NT）として北海道・東北亜種があげられています。イギリスではいったん絶滅したことはよく知られていますが、日本でも特に本州や九州では、その数を急激に減らし続けています。



このチョウの保全上考えなければならないのは、北海道ではナガボノワレモコウという植物に卵を産み幼虫の初期まではその花穂を食べ《草食時代》、幼虫は秋口になると穂を出てハラクシケアリの巣に巧みに移動してアリの幼虫を爆食いする《肉食時代》を送るというチョウとして特異な生態をたどることです。ゴマシジミは、この草と肉の2つがないと生きてはいけませんので、保全の難易度も2倍です。でもこの3者の出会い、まさに生物多様性というより他ありません。この科学読みものを手に取って一読下さい。不思議な生きかたが、少し見えてくるとおもいます。北広島森の倶楽部ゴマシジミ研究部ホームページでも科学読みものの内容を公開しています。 <https://moriclujimndofree.com/>

前田一步園財団の助成によってこの科学読みものを作ることができました。心より御礼申し上げます。また最後になりますが、国立環境研究所の坂本洋典博士には、常日頃から我々のド素人単純質問に対しても優しく分かりやすく対応して頂きました。深く感謝いたします。

